

沖縄はあまりにカラフルで、それにはどうしても色
を対置させないと。それと、カラーに移行するもう一
つのきっかけは東南アジアへの旅でした。沖縄からカ
メラもフィルムも持たずにふらっと出掛けて、香港で
ローライを買って、エクタクロームを詰めていった。
熱帯の東南アジアを亜熱帯の沖縄の延長として考えて
いたから、当然フィルムはカラーでした。ためしにモ
ノクロにトライしてみるんだけど、眼がカラーになっ
ていて、すぐカラーに戻っちゃう。だから、そのまま
受け入れるしかなかったけれど、今回、これまで50年
間の写真の見直しをやって、少し見えてきました。
モノクロからカラーへの移行はアメリカ離れだとい
うことが。僕のモノクロ写真にはアメリカが見え隠れし
ているけど、カラー写真にアメリカの影は薄い。



宮古島①1979

『吹奏楽の楽しみ方』

砺波市文化会館 八田 真悟

皆様初めまして。今年度より砺波市文化会館で働いております、八田真悟と申します。

今回は、「吹奏楽の楽しみ方」についてお話しさせていただこうかと思います。

吹奏楽とは主に、フルートやクラリネット等の木管楽器、トランペット等の金管楽器、そして打楽器によって構成されている楽団のことを言います。日本で最初に吹奏楽の響きが鳴り響いたのはペリーが来航した時。これを期に開国が一気に進みました。その中でイギリスと親交を深め、初めての軍楽隊が出来ます。それが薩摩藩による「サツマバンド」です。

軍楽隊から始まった日本の吹奏楽ですが、やがて民間にも広まりコンクールも開かれるようになりました。このころから様々な曲のレパートリーが演奏されるようになります。

有名な作曲家でいえば、「惑星」で有名なホルストが作った、吹奏楽のための組曲1・組曲2や、ショパンが書いた軍隊行進曲などがあります。

現在の吹奏楽のレパートリーは編曲ものが多いです。ポピュラー音楽を編曲したものや、オーケストラの曲を編曲したものが主に演奏されています。オーケストラしか聴いたことがない・聴いてない。という方でも楽しめると思います。そして、オーケストラしか聴かない！という方、編曲を楽しむというのもいいと思います。バイオリンのメロディが、どの管楽器が吹いているのか、それによってどんなサウンドがするのか。と考えるのも一つの音楽の楽しみ方だと思います。



チューバ（大型の低音金管楽器）

もし、吹奏楽も面白そうだなと思った方、ぜひやってみませんか？

日本でこそ、60歳を過ぎて管楽器を続けたい方は少ないですが、海外に目を向けると面白い光景がありました。あるイギリスの一般バンドの写真だったのですが、70歳ぐらいのおじいさんの隣になんと！5歳ぐらいのお子さんが一緒に吹いているのです！

音楽に年齢は関係ありません。興味をもたれた方、ぜひ一緒に音楽を楽しみましょう！

—編集後記—

今年は美術館開館15周年の年であり、梅原龍三郎展、木下晋展、川原和夫展、そして東松照明展とあつという間の一年でした。来年もまたよろしくお願ひします。皆さまよいお年をお迎えください。（0）

カバというかたまりがおり十二月 坪内稔典